

ライトニング・トーク

パプアという「狭間」を読み解く

Analysis of international relations in Papua from the perspective of “in-between”

長澤パティ 明寿（慶應義塾大学総合政策学部 4年）

Akitoshi Nagasawa Pati (Keio University, Undergraduate Student)

日本の真南、ニューギニア島西部に位置するインドネシア・パプア地域。（以下パプアと呼称し、パプア州、山岳パプア州、南パプア州、中央パプア州、西パプア州、南西パプア州を含む地域と定義。）豊富な天然資源と地理的資源を有する同地域はオランダ領ニューギニアのインドネシア統治移管以降、フリーポート・インドネシア社をはじめとする外資系企業が事業展開を行ってきた。また、パプアにおいては、歴史と政治的地位をめぐる議論、疎外と差別の問題、インドネシア国内における開発の遅れ、国家による暴力と人権問題等の理由からインドネシアからの分離独立を求める動きが続いている¹。

目下、各国が積極的な地政学的外交政策を展開し、パワーの衝突が激しさを増しているアジア太平洋地域²。今後の国際社会や国際関係を展望する上で「大国の狭間」に存在する地域を理解する重要性が指摘される中³、パプアはアジアと大洋州(オセアニア)の狭間かつ中国の主張する「第2列島線」の南端に位置するという「地政学的要所」としてだけでなく、豊富な天然資源を有する「地経学的要所」として様々な国からの「干渉」に向き合っている。

目まぐるしく変化する国際情勢と激化するパワーポリティクスの中、内外に複雑な課題を抱えるパプアが諸外国といかなる関係を構築しているのか考察を深めることを通じて、アジア太平洋地域を巡る大国間競争の行く末を展望する一助とすることが本研究の主眼である。また、国際社会とパプアの関係について理解を深めることは流動化するパプア情勢を見極める重要な示唆となる。

本発表では、本研究の意義や目的について説明するとともに、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスアジアマスタ研究プロジェクト支援制度を活用し2023年10月～2024年9月にかけて実施した国立チェンドラワシ大学への留学を含む現地調査について報告する。

¹ 井上治（2013）インドネシア領パプア州の苦闘：分離独立運動の背景. めこん.

² 令和5年度版外交青書「情勢認識」を参照

³ 廣瀬陽子（2020）プーチンのグランド・ストラテジーと「狭間の政治学」：ロシアと地政学. 北岡伸一・細谷雄一編 新しい地政学. 東洋経済新報社. 第6章.